

ごあいさつ

沖縄県衛生環境研究所長 渡口 輝



令和5年4月1日付
けで所長に就任いた
しました。衛環研ニュー
ースの紙面を借りて
ご挨拶申し上げます。
私は平成6年に、この
衛生環境研究所に新
採用として配属され、
多くの時間をこの職

場で過ごしてきました。もちろん、公務員です
ので度々他の職場へも異動しましたが、当研究所
は非常に思い入れのある職場です。今回、所長を
拝命することとなり、微力ながらこの研究所の発
展に尽力したいと思います。

さて、当研究所の機能は、①試験検査、②調査
研究、③研修教育、④公衆衛生情報等の収集・解
析・提供の4つであります。これらの基本的な機
能により、県民の公衆衛生の向上や環境の保全に
資する調査研究に取り組んでいるところです。当
研究所は、昭和21年に中央衛生試験所として設置
されて以来、様々な問題に対処してまいりまし
たが、時代により要求される内容は異なり、その
都度、最新の技術により対応しております。

近年の代表的な事例としましては、やはり新型
コロナウイルス感染症への対応があげられます。
当該感染症が発生した当初は、県内においても検
査体制が確保されておらず、県内での感染者のす
べての検査を当研究所が担っておりました。その
後、民間においても検査体制も整備され、感染症
法における扱いも5類に引き下げられる等、当該
感染症への対応も変化してきております。しかし
ながら、当該感染症の流行では様々な課題が生じ
ており、沖縄県ではこれまで以上に感染症への対
応強化を図るため、令和5年4月に、当研究所内
に「感染症研究センター」を設置しております。
同センターは、感染症の早期探知や、リスク評価、
予防策等の検討を継続的に担う体制の整備等を目
的としており、今後の本県の健康危機管理に大き
く貢献していくものと考えております。

当研究所は、こうした時事的な問題に取り組む
一方、本県が地域的にかかえる問題についても継
続して取り組んでおります。本県は亜熱帯地域に
属し、固有の生態系を有していることから発生す
る問題、米軍基地に由来する環境問題、他県とは
異なる文化や生活習慣等も起因すると考えられる
健康上の課題等について、長年、調査研究を続け
ております。

環境分野におきましては、サンゴ礁海域の保全
に関して、陸域からの赤土流出防止等にかかる研
究を行っており、昨年度制定されました「第二次
赤土等流出防止対策基本計画」においても、その
基盤となる知見を提供しております。また、米軍
基地周辺のペルフルオロオクタンスルホン酸
(PFOS)等の水質調査やホワイトビーチ基地に寄
港する原子力潜水艦の放射能調査等も行っており
ます。

衛生分野におきましては、沖縄県に生育・生息
する生物に起因する問題についても取り組んでお
り、サンゴ礁域^{しょういき}に生息する毒化したパラフエダイ
等の魚類による食中毒(シガテラ)にかかる調査
研究や、ハブ、ハブクラゲ等の危険生物にかかる
調査研究及び被害防止の啓発活動にも力を入れて
いるところです。

また、沖縄県がん登録室の管理運営や、健康づ
くり関連情報の収集や解析を行っており、県の健
康推進に係る施策への一助となっております。

当研究所は公的研究機関として、様々な健康危
機管理事案や環境問題に迅速かつ的確に対応し、
各種行政施策の推進に職員一丸となって取り組ん
でいきます。関係各位のご理解、ご協力をよろし
くお願いします。